



題字 井口 文章
再刊 第299号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2019

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：映画研究部、全国大会出場決定
卒業生との交流会
二面：生徒会役員が掲げた公約は？
合唱同好会定期演奏会開催

全国で一番アツい夏を

映画研究部 22年連続の快挙

6月16日(日)、映画研究部が全国大会出場を決め、他にも多くの部活が大会に出場した。今号では、大会出場までの努力や苦勞とこれからの抱負などについて取材した。

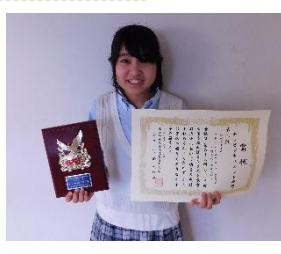
映画研究部 全国出場決定

6月16日(日)、千代田放送会館で第66回NHK杯全国高校放送コンテスト東京都大会が行われた。ドキュメント部門において、映画研究部制作の『THE OMA TASTORY』が第2位に輝き、22年連続で全国大会への出場が決まった。



小俣光明さんに今までの捜索活動について取材を行う映画研究部

「あらすじ」
1945年4月2日。東京都東村山市のとある民家に、B29が墜落し、搭乗していたアメリカ人兵士11名が亡くなった。搭乗していたアメリカ人兵士の遺族を探してほしいと父から頼まれた小俣光明さんは遺族を見つけ出すことを決意する。この作品では捜索活動での苦勞や小俣さんの今までの努力などの経緯を取材し、ドキュメント作品にしたものだ。



部長兼映画監督を務めた後藤さん

部長であり、この作品の監督を務めた後藤和香さん(2K)は「1位を獲得したかったのが悔しいという思いはありましたが、全国大会出場の伝統を守れたので今はホッとしています」と心情を語る。この作品制作の日々について後藤さんは「ほとんどの部員がドラマ部門担当だったというのもあり1人での作業が多かったですが、部員みんながスキマ時間を見つけて手助けしてくれました。とても心強かったです」と振り返る。実はこの題材は約1年半前に先輩たちが取材し、不完全なまま終わってしまったものだという。今回遺族の写真などの新資料が見つかり、また遺族の所在などが判明したため再びスポットライトを当てることに決めたそう。

楽しく学ぶ、受験成功のカギ

現役大学生との交流会開催

6月26日(水)、視聴覚室Aにて卒業生との交流会が行われた。今回の交流会では、約20人の錦城生が54回生の坂口璃音さんから、大学入試や大学生活の話や、大学入試や「様々な研究をしている人々物理をベースに持続可能な社会を実現する技術者の養成を目標とする」と紹介した。交流会終了後、参加した柿田萌々菜さん(2M)は「学びたいことや夢が大学合格に導きます」と笑顔で話す。学習に励む日々を過ごすことが出来た(寛)

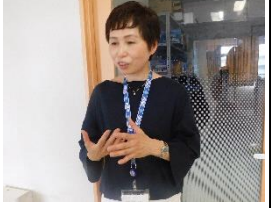
ブロック塀取り壊し工事中

7月16日(火)から錦城高校内のブロック塀取り壊し工事が始まった。事務長によると、工事のきっかけは昨年6月18日の大阪北部地震で起こったブロック塀倒壊事故。ブロック塀は夏の休みの期間を使ってフェンスに取り換えられる予定だ。(権)

自由な演奏でストレス解消

7月17日(水)の放課後、ドラムサークルがホールで開かれ、8人の生徒が参加した。ドラムサークルとは、参加者が輪(サークル)になり、打楽器(ドラム)を叩いて即興的に音楽をつくりあげる打楽器アンサンブルのこと。輪の中心では、ファシリテーターと呼ばれるガイド役がボディランゲージを使って、サークル全体をリードしていく。ドラムサークルは練習をしてパフォーマンスするのではなくその場で自由に演奏するため、一体感を感じながら緊張やプレッシャーから解放された時間を共有することができる。参加者はジャンベを中心にビブラスラップ、カリンバなどのパーカッションを用いて好きなようにリズムを刻んだり、他の人のリズムを真似したり、ファシリテーターとして身体を上下に動かして音の強弱を表したりと楽しんでいった。スクールカウンセラーの中島静代先生は、ストレスを抱えやすい多忙な錦城生のためにこの活動を企画した。ドラムサークルにはストレスの緩和だけでなく、燃え尽き症候群の回復など様々な可能性や効果が期待されている。他にも「錦城生は音楽が好きで多いので、リズムを使って誰でも簡単にできるドラムサークルを採用しました」と話した。ドラムサークルは2学期から月1回の開催が考えられている。疲れを感じたときや勉強の息抜きに、ぜひ参加してみよう(松)

自分の思うままに太鼓を叩く編集委員



「音楽の祭典にも使われています」

7分間のラジオドラマ「伝えないより『伝える』」制作。原稿の再構成などのハプニングがあったが、なんとか提出期限前に完成させた。結果は予選敗退となりましたが3年生全員で作品を作れた悔いはありません」と振り返った。個人部では新田次郎作「芙蓉の人」の一部を朗読。「手術」が言いかかったが口を意図的に開けることで克服したそう。早川くんは「決勝進出が1つの目標だったので満足しています」と笑顔を見せた。



「ハプニングもありましたがなんとか完成できました」

新聞委員会からの報告

錦城高校新聞委員会は昨年の11月17日(土)に行われた第34回東京都高等学校新聞国高等学校総合文化祭壮行会に参加。そこでは東京都から総合文化祭への推薦状を頂きました。錦城高校新聞委員会は11年連続で総合文化祭に出場となります。今年の総合文化祭は、7月28日(月)から8月1日(木)に佐賀県で行われます。佐賀県では、全国から集まった新聞部・委員会のメンバーと、班に分かれて県内の名所を交流取材します。その様子や佐賀での取材内容については、次号以降で詳しくお伝えする予定です。お楽しみに！

鉄道研究部 秩父旅行記



6月23日(日)、鉄道研究部は秩父・長瀬へ日帰り取材旅行に行ってきました！西武鉄道の新型車両「Laview」に乗りたり、蒸気機関車「パレオエクスプレス」に遭遇したりと充実した旅となりました。

熱中症に「注意を！」

熱中症の患者が多く見られる時期となった今日この頃。錦城の患者数は例年と変わらない多さで、すでに6月には1人が救急車で搬送されている。熱中症について、養護の早川先生に話を聞いた。昨年の状況として多かつたのは、部活の外周中、気がつくまで脱水症状になっていたというケースだ。「体育の授業と違い、部活はいつも先ず、水やお茶だけでなく、ご飯の中からとれる水分もありません。1食抜いただけで、意外と身体への影響は大きいんです」と朝食の大切さを話す。涼しい所に行く、経口補水液を飲むなど自分でできることはたくさんある。「自分にはないはず」と油断して、気がついたときには熱中症になってしまったという経験がある。しっかりと自己管理を(燕)

「すぐに休む勇気をもって」と早川先生

むらさき草

「最高。感情が高ぶったとき、口から出るのはこの言葉だ」先日、とあるバンドのライブを観た。きれいで繊細な楽曲、情熱的な演奏に心を打たれた。この素敵な瞬間のことを人に伝えたい。しかし、何かこの感動を「最高」という言葉にしか変換できない。この気持ちは「最高」という一言で表せるものではないのに、うまく表現できるような言葉が出てこない。どうしたらこの感情を言葉で表現できるのだろうか。感情を表現するには「語彙力」を高める必要があるのではないかと。語彙力とは、その人が持っている単語の知識と、それを使いこなす能力のことだ(デジタル大辞泉より)。コピーライターの梅田悟司さんは、インタビューの中で「語彙力は大変大切」と話す。「ただ、語彙力が大切だといっても、辞書の言葉を多く知れば良いということではないはずで、考えていることを表現するための語彙を増やす必要があると思うんです」。「ものを書くことは、自分の中にあるモヤモヤがどういう言葉で表現可能なのか、ということを探る作業。作業で見つけた言葉を繋げていけば、文章で表現できる」と梅田さんは言う。「ヤバイ」は便利な言葉だ。どんなに良いものを見ても、すべて「ヤバイ」で完結してしまう。表現力の低下は感性を鈍くし、世界を単調に思う。ペネツセコーポレーション「第1回現代人の語彙に関する調査」によると、1か月に本を1〜2冊読む人の語彙力が67%なのに対し、まったく読まない人の語彙力は51%。この結果から、読書は語彙力の向上に繋がる可能性が高いと言える。夏休み、宿題で夏目漱石の『こころ』を読む。この良い機会に、夏目漱石の他の作品も手に取ってみようと思う。読書で語彙を身に付けて、「最高」を表現できる人になりたい。(松)

生徒会 公約達成度いかに?

今までの進捗と残された課題

今期の生徒会が始まって早8か月。生徒会役員は昨年11月の生徒会選挙の際にそれぞれの公約を掲げていた。生徒会の引き継ぎまであと4か月。期末考査後まで、それぞれの公約がどれほど達成できたのかを本人達に評価してもらい、残された課題点とこれからの目標について取材した。

(編集部共同取材)

生徒会役員、活動の現状

① 生徒会会長の松本千冬くん(3B)が生徒会選挙で述べた公約は、錦城生のゴミ捨てマナーを改善することだ。ゴミ置き場で、可燃ゴミの袋が不燃ゴミの場所に置いてあったり、不燃ゴミの袋の中にペットボトルが入っていたり、過去頻りに話題に挙がった。

② 生徒会副会長の橋本太朗くん(2A)は、意見箱の改良と、小平ロードなどの公共の場でのマナーについて啓発することを公約に掲げていた。しかし、意見箱については2年生でも使い方を知らない人がいるのが現状だそう。実際に意見が投函されることも少なく、「意見あつての生徒会なので、もっと注目してもらいたいです」と語る。

また、錦城生のマナーは改善されず、近隣住民からの苦情は減らなかったという。両者の改善策や啓発活動を、残りの任期で考えていきたいと話した。

役職	名前(クラス)	主な公約	達成度
① 生徒会会長	松本千冬くん(3B)	ゴミ捨てマナーの改善	50%
② 生徒会副会長	橋本太朗くん(2A)	マナーの啓発 意見箱の改良	30%
③ 監査委員長	勝木直人くん(3G)	仕事の効率化	100%
④ 監査副委員長	岡崎翔也くん(2B)	予算の使い道を可視化	80%
⑤ 錦城祭実行委員長	森彩葉さん(2M)	錦城祭ルールの見直し 新企画の提案	-

それぞれの公約内容と昨年11月～今年7月の達成度

③ 監査委員長の勝木直人くん(3G)の公約は、監査委員の仕事の効率化。「部活の人は正確な書類を期日通りに出して、協力的でした」と話す。

反省点として、朝礼で予算の決め方を生徒に説明したかったが、今年ではできなかったことを挙げる。後輩に引き継ぎ、来期は実行させたいという。予算会議は目立ったミスはなかったという。

④ 監査副委員長の岡崎翔也くん(2B)は、予算の使い道を可視化することを公約としていた。自身が1年生のときから、予算案審議や決算報告の際に何が話されているかわからなかったという。

⑤ 5月に行われた生徒総会では、ゴールデンウィークで準備が遅くなってしまい、監査委員会の宣伝ができませんでした。これからはやってみます」と意気込みを語る。活動内容の把握はでき、自分の仕事は達成できたことから、達成度は80%と話した。



公約達成率について語る生徒会役員

雪国から絵画の贈り物

ラーニングセンターのテラス前の柱に絵が飾られている。風景画家の番場三雄さんが、蔵王の頂上の樹水を描写した『高原の朝』だ。この絵は今年の2月に、山形県教育旅行誘致協議会から寄贈された。錦城が修学旅行として、50年以上山形県蔵王ヘスキーに行っていることに対するお礼の品だという。以前は新校舎2階のエレベーター前に飾られていたが、同じ場所に飾られていた別の絵とのバランスが考慮され、今の場所に移された。

生徒の間ではこの絵のことを知らない人が多い。この機会に1度見に行ってみてはどうだろうか。

(燕)



古本市にご協力を

図書委員会では今年度も錦城祭で古本市を開催する。そこで、小説や漫画などの不要本を募集中だ。他にも過去問、参考書や雑誌なども大歓迎。過去問は錦城だけでなく他校のものでも大丈夫だという。

司書の渡邊愛先生は「古本市によって出た収益はトトロのふるさと基金に寄付しています」と話す。トトロのふるさと基金とは、映画『となりのトトロ』の舞台といわれている、狭山丘陵周辺の自然を守るための募金活動のことだ。寄付



ふるさと基金の感謝状を手に持つ渡邊先生

【締切日】9月13日(金) 持ってきた本は各クラスの図書委員もしくは図書室まで！

渡邊先生は「1人1冊でもいいので、ご協力よろしくお願います」と錦城生に呼びかけた。

(燕)

豪州から来た高校生 日本を学ぶ

7月1日(月)、オーストラリアのフォレストレイク高校から18名の生徒と3名の教員が錦城に学校体験のため、来校した。生徒たちは食堂で昼食や書道、英会話、音楽などの授業体験を通じて錦城生と交流した。放課後、Shalom Pelaseumaさん、Alexander Stuartさんの4人の生徒と、フォレストレイク高校で日本語を教えているPeter Frosty先生にインタビューした。

はじめに、日本に来てみた感想を聞くところ、日本語で「すごい！」と生徒たちは口を揃えて話した。具体的には、明治神宮の日本らしい建築や秋葉原の大きな電気看板に感動したそう。「日本は景色がきれいで雰囲気が好き」とSarahさんは話した。錦城生について話した生徒は、食堂にいる生徒が彼らにとって有意義なものになったと話した。

(燕)



食堂で錦城生とおしゃべりを楽しむフォレストレイク生

届け、「青春」の音色

合唱同好会 定期演奏会開催

6月28日(金)視聴覚室Aで、合唱同好会の第2回定期演奏会が行われた。テーマは「青春」。3年生にとっては最後のコンサートに、多くの錦城生が集まった。

披露されたのはアンコール曲を含め7曲だ。どの曲も美しい歌声と一体感あるハーモニーで観客を魅了した。最初の曲紹介の司会は玉野井大志くん(3J)と竹本龍宏くん(3L)。ユーモアあふれる紹介に、会場は笑いに包まれた。2



美しい合唱で感動を呼ぶ

前が呼ばれるなど、歌だけでなく演出も光るコンサートだ。新代表の熊田あいなさん(2E)によると、今回のコンサートは今までで一番集客数が多かったという。「笑いのあふれるコンサートでした」と笑顔を見せた。大変だったことは、兼部している人としていない人の差を埋めること。合唱同好会の兼部率は高く、兼部しながら「合奏したい」と思ったり、ぜひ合唱同好会に入りたいです」と呼ぶ。曲を減らすなど、穴を補える

また、前代表の二神満琳さん(3I)は「もともと有志団体だったのを私たちの代で同好会に昇格できたので、これからも続いてほしいです」と語る。

最後に熊田さんは錦城生に「この同好会は学年問わず、みんな雰囲気です。もしコンサートで聞いて『合唱がいいな』と思ったら、ぜひ合唱同好会に入りたいです」と呼びかけた。

(燕)

軽音楽部 夏ライブ本日開催!

新校舎6階音楽室にて13:00 START

大会報告

映画研究部 6月16日(日) 第66回NHK杯全国高校放送コンテスト東京都大会 テレビドキュメント部門2位 全国大会出場決定

空手道部 6月7日(金)・8日(土)・9日(日) 関東高等学校空手道大会 男子団体形 1回戦敗退

放送部 6月16日(日) 第66回NHK杯全国高校放送コンテスト東京都大会 団体の部 予選敗退 個人の部 早川涼介(3A) 決勝進出

生徒会動静

6.17~7.19 7月16日(火) 図書委員会 中央委員会随時活動中

錦城文芸 日本代表と共に汗を流す錦城生

ワンダーフォーゲル部に所属している増古朋実さん(2H)は週に2回、カバディ女子日本代表の練習に参加している。今回は増古さんのカバディとの出会いやその魅力について取材した。

増古さんは『灼熱カバディ』という漫画を読んだことがきっかけでカバディに興味を持った。その後、カバディについてインターネットで調べてみたところ、カバディの体験会を見つけ、参加してみたそう。後日、体験に参加したチームの応援として行った大会の後のエキシビジョンマッチに出場した際に、カバディ女子日本代表のコーチから「練習に参加してみないか」と声をかけられ、練習に参加しはじめたそう。

カバディの魅力は「ゲーム中、体力以外にも集中力と頭を使うこと」と話す。元々野球や陸上といったスポーツをやっていた経験もあり、脚力が重要視されるカバディの練習にも「ついていけているかな」と増古さん。「練習でやった動きをどこまで練習試合に落とし込めるかを意識しています」と語った。

カバディはインドの国技として有名だが、女子カバディは競技人口が少ないという。増古さんは大学に入学しても続けていきたいと抱負を口にした。

(梅)



カバディの練習風景